



家庭学習のすすめ



<皇子山中学校区版>

※こちらの面を
よく見える所にはっておきましょう！

家庭学習の意義

家庭学習によって、次のような教育効果が期待できます！

- 1 学習内容が確かなものになる
- 2 学習の習慣が身につく
- 3 がまん強さ、根気、集中力がついてくる
- 4 家族のふれあいの場にもなる

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心がまえや関わり方で、家庭学習の成果もかわってきます。

子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

- 1 決まった時間に毎日学習する
- 2 集中して学習する
- 3 学習環境をととのえる
- 4 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

家庭学習の方法

- 1 学校の宿題に最初に取り組ませてください。
時間があれば、自主学習や読書などに取り組ませてください。
- 2 高学年になったら、自分で考えて取り組めるようになることが大切です。
- 3 勉強がおわったら、次の日の準備をする習慣をつけさせましょう。
鉛筆をけずり、準備物をしっかり用意し、次の日の学習予定を頭に入れておくことが大切です。

各学年の学習時間

1年生・2年生 20分～30分以上
3年生・4年生 40分～50分以上
5年生・6年生 60分～70分以上

※詳細は裏面をご覧ください。

各学年の家庭学習のポイント（1・2年生）

いっしょにしてやる気をおこす

いっしょに、学習内容ややり方を決めましょう。できたことをほめることで、意欲が高まります。

こんな時期です

- 何でも知りたがっています。
- がんばったこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- 一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。

ポイント

- (1) 子どもの学習に関心を 家でも勉強するという習慣をつけましょう。
 - ・少ない時間でもいっしょにやるのが望ましい。
 - ・いっしょにできないときは後で目を通す。
- (2) 学習環境を整える 学習机など、いつも決まった場所をつくりましょう。
 - ・テレビは消す。スマートフォンやゲーム機は別の場所に置く。
 - ・近くの部屋などで家族が見るときは音量を下げるなど協力する。
- (3) 家族と学校の協力 学校からの連絡やお便りをいっしょに確かめましょう。
 - ・毎日、連絡帳を開いてサインをする。



学年で身につけたい力

< 習慣づけ1年生 >

- ・鉛筆を正しく持って字を書くことができる。
- ・ひらがな、カタカナを読み、書くことができる。
(ゆっくり、大きく、ていねいに)
- ・助詞「てにをは」を使い分けて文章を書くことができる。
- ・配当漢字（80字）のすべてを読み、9割以上の漢字を書くことができる。
- ・たし算やひき算が正確にできる。
- ・時計（アナログ）を見て、何時何分か読むことができる。
- ・大きな声ではっきり話したり読んだりすることができる。
- ・絵本や簡単な読み物に親しむ。

< 興味を広げる2年生 >

- ・配当漢字（160字）のすべてを読み、8割以上の漢字を書くことができる。
- ・3位数までのたし算、ひき算ができる。
- ・順序に関係なく九九をすらすら言うことができる。
- ・定規を使って筆算の線をきれいに引き、計算する。
- ・時間と時刻の意味がわかる。
- ・決められた長さの直線を正確に引くことができる。
- ・自分の住む地域の様子や身近な生き物(草花、虫)などに興味や関心を持つ。
- ・順序よく話すことができる。
- ・読書に親しむことができる。

家庭学習の意義

家庭学習によって次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容が確かなものになる

学校で学習したことを家庭で復習することにより、学習内容の習熟・定着を図ることができます。特に、漢字や計算は毎日繰り返し練習すると効果的です。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。まとめてたくさんやるより、少しずつでも毎日続けさせてください。



② 学習習慣が身につく

少しずつでも継続することで大きな力となります。低学年のうちから毎日家庭学習を続けることで「家庭学習するのはあたりまえ」を定着させてください。



③ がまん強さ・根気・集中力がついてくる

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことでがまん強さ・根気・集中力を養うことができます。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力が必要です。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書の時間をしっかり確保してください。

④ 家族のふれあいの場にもなる

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。「本を読んでいる時、横で聞く。」「勉強がわからない時、教えたり調べたりする。」など、家庭学習をしている子どもに保護者が関わることでコミュニケーションをはかってください。

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心構えや関わり方で家庭学習の成果も変わってきます。子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日学習する

家庭学習を習慣づけるためには、毎日決まった時間に学習することが大切です。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思いますが、家族で十分話し合い実行してください。



② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。「家庭学習の方法」に記しています各学年の学習時間を目安に学習します。学校では、学年に応じた宿題を毎日出しています。宿題が終わっても時間が残っている時は読書・リコーダー・自主学習等に取り組むよう言葉かけをしてください。

③ 学習環境を整える

整頓された机に向かってよい姿勢で学習するようにします。テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえたり、マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあっては学習に集中できません。落ち着いて学習できる環境づくりに努めてください。

④ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

保護者や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることによって自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。口うるさく言ったり間違いをきつくしかったりすることは逆効果になります。子どものがんばりを認め、ほめて励ましてください。



自主学習参考例（じしゅがくしゅうでできること）（１・２年生）

くくこ

【おんどく】

○大きなこえで、よめるようにしましょう。

○「、」「。」に、きをつけてすらすらよめるようにれんしゅうしましょう。

○まい日、つづけてれんしゅうしましょう。

【かくこと】

○正しいしせいで、ていねいにゆっくりかきましょう。

○ひらがな、かたかな、かん字を正しいかきじゅん、かたち、おくりがなでかけるようにしましょう。

○たのしかったことやうれしかったことを、じぶんのことばで、えにっきにしたり、てがみにしたりしてみましょう。

さんすう

○かすのよみかた、かきかたをれんしゅうしましょう。

○まずは、ゆっくり正しくけいさんできるようにしましょう。正しくけいさんできるようになったら、すこしずつはやくできるようにしましょう。

○2ねんせいの人は、九九をすらすらいえるようにしましょう。

そのほか

○お手つだいをすすんでしましょう。

○すすんで本をよみましょう。

○からだをうごかしてあそびましょう。





家庭学習のすすめ



<皇子山中学校区版>

※こちらの面を
よく見える所にはっておきましょう！

家庭学習の意義

家庭学習によって、次のような教育効果が期待できます！

- 1 学習内容が確かなものになる
- 2 学習の習慣が身につく
- 3 がまん強さ、根気、集中力がついてくる
- 4 家族のふれあいの場にもなる

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心がまえや関わり方で、家庭学習の成果もかわってきます。

子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

- 1 決まった時間に毎日学習する
- 2 集中して学習する
- 3 学習環境をととのえる
- 4 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

家庭学習の方法

- 1 学校の宿題に最初に取り組ませてください。
時間があれば、自主学習や読書などに取り組ませてください。
- 2 高学年になったら、自分で考えて取り組めるようになることが大切です。
- 3 勉強がおわったら、次の日の準備をする習慣をつけさせましょう。
鉛筆をけずり、準備物をしっかり用意し、次の日の学習予定を頭に入れておくことが大切です。

各学年の学習時間

1年生・2年生 20分～30分以上
 3年生・4年生 40分～50分以上
 5年生・6年生 60分～70分以上

※詳細は裏面をご覧ください。

各学年の家庭学習のポイント（3・4年生）

認めてほめて自信をつける

家族の温かいアドバイスや励ましの言葉によってやる気を起こします。宿題をみるなど手助けして応援すると、少しずつ自分でできるようになります。

こんな時期です

- いろいろなことに興味を示し、行動範囲も広がります。
- 好きなことに熱中するようになります。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ、手助けは必要です。

ポイント

- (1) 子どもの学習に関心を がんばりを見逃さず励ましの言葉をかけましょう。
 - ・わからないところはいっしょに考える。
 - ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
- (2) 学習環境を整える 学習時間をいっしょに決めましょう。
 - ・テレビは消す。スマートフォンやゲーム機は別の場所に置く。
 - ・テレビやゲームの時間は家族で話し合って決める。
- (3) 家族と学校の協力 学校からのお便りを家族に渡す習慣をつけましょう。
 - ・置く場所を決める。
 - ・食事の前に渡すなど、渡す時刻を決めて約束する。



学年で身につけたい力

< 自分で歩き出す3年生 >

- ・配当漢字（200字）のすべてを読み、8割以上の漢字を書くことができる。
- ・国語辞典の使い方に慣れる。
- ・ローマ字を読み書きできる。
- ・順序を考え「」を使った文を書くことができる。
- ・正しい手順で位をそろえてかけ算の筆算ができる。
- ・わり算ができる。
- ・コンパスを正しく使うことができる。
- ・長さ・重さ・時間の単位と測定ができる。
- ・小数や分数の意味や表し方が理解できる。
- ・地域の様子や働く人の様子に興味を持つ。
- ・冒険物語や知識を広げる本に親しむ。

< 自信をつける4年生 >

- ・配当漢字（200字）のすべてを読み、8割以上の漢字をかくことができる。
- ・国語辞典や漢字辞典の使い方に慣れる。
- ・文と文の意味のつながりを考えながら指示語や接続語を使うことができる。
- ・わり算の筆算ができる。
- ・ローマ字を適切に読み書きできる。
- ・地図を使って地名を調べることができる。
- ・47都道府県の位置がわかり、正しく漢字で名前を書くことができる。
- ・分母が同じ分数のたし算ひき算ができる。
- ・冒険物語や知識を広げる本に親しむ。

家庭学習の意義

家庭学習によって次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容が確かなものになる

学校で学習したことを家庭で復習することにより、学習内容の習熟・定着を図ることができます。特に、漢字や計算は毎日繰り返し練習すると効果的です。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。まとめてたくさんやるより、少しずつでも毎日続けさせてください。



② 学習習慣が身につく

少しずつでも継続することで大きな力となります。低学年のうちから毎日家庭学習を続けることで「家庭学習するのはあたりまえ」を定着させてください。



③ がまん強さ・根気・集中力がついてくる

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことでがまん強さ・根気・集中力を養うことができます。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力が必要です。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書の時間をしっかり確保してください。

④ 家族のふれあいの場にもなる

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。「本を読んでいる時、横で聞く。」「勉強がわからない時、教えたり調べたりする。」など、家庭学習をしている子どもに保護者が関わることでコミュニケーションをはかってください。

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心構えや関わり方で家庭学習の成果も変わってきます。子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日学習する

家庭学習を習慣づけるためには、毎日決まった時間に学習することが大切です。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思いますが、家族で十分話し合い実行してください。



② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。「家庭学習の方法」に記しています各学年の学習時間を目安に学習します。学校では、学年に応じた宿題を毎日出しています。宿題が終わっても時間が残っている時は読書・リコーダー・自主学習等に取り組むよう言葉かけをしてください。

③ 学習環境を整える

整頓された机に向かってよい姿勢で学習するようにします。テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえたり、マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあっては学習に集中できません。落ち着いて学習できる環境づくりに努めてください。



④ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

保護者や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることによって自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。口うるさく言ったり間違いをきつくしかったりすることは逆効果になります。子どものがんばりを認め、ほめて励ましてください。

自主学習参考例（じしゅがくしゅうのでできること）（3・4年生）

国語

○声の大きさ、速さ、間の取り方に気をつけて正確に読みましょう。

○漢字・・・とめ、はね、はらいに気をつけて正確に書けるようにしましょう。

○ローマ字・・・しっかり覚えて、読んだり書いたりできるようにしましょう。

○作文、日記・・・その日にあったことを、組み立てを考えて書いてみましょう。

○国語辞典、漢字辞典・・・教科書に出てきた言葉の意味を調べたり、その言葉を使って文章を作ったりしましょう。

算数

○計算・・・かけ算、わり算が正しく速くできるようにくりかえし練習しましょう。

○図形・・・三角定規、分度器、コンパスなどが正確に操作できるようにくりかえし練習しましょう。

○問題づくり・・・式を立ててから、問題をつくりましょう。

社会

○地図・・・ニュースや新聞に出てくる地名や位置をしらべましょう。

47都道府県の名前や位置を覚えましょう。

地図記号や八方位を覚えましょう。

理科

○観察・・・いろいろな植物や昆虫を観察してみましょう。

その他

○物語や詩の本、科学などいろいろなジャンルの本を読みましょう。

○好きな運動遊びをしましょう。





家庭学習のすすめ



<皇子山中学校区版>

※こちらの面を
よく見える所にはっておきましょう！

家庭学習の意義

家庭学習によって、次のような教育効果が期待できます！

- 1 学習内容が確かなものになる
- 2 学習の習慣が身につく
- 3 がまん強さ、根気、集中力がついてくる
- 4 家族のふれあいの場にもなる

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心がまえや関わり方で、家庭学習の成果もかわってきます。

子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

- 1 決まった時間に毎日学習する
- 2 集中して学習する
- 3 学習環境をととのえる
- 4 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

家庭学習の方法

- 1 学校の宿題に最初に取り組ませてください。
時間があれば、自主学習や読書などに取り組ませてください。
- 2 高学年になったら、自分で考えて取り組めるようになることが大切です。
- 3 勉強がおわったら、次の日の準備をする習慣をつけさせましょう。
鉛筆をけずり、準備物をしっかり用意し、次の日の学習予定を頭に入れておくことが大切です。

各学年の学習時間

1年生・2年生 20分～30分以上
 3年生・4年生 40分～50分以上
 5年生・6年生 60分～70分以上

※詳細は裏面をご覧ください。

各学年の家庭学習のポイント（5・6年生）

見守りほめてやる気を伸ばす

子どもの話をよく聞き、成長を温かく見守ることで、将来の夢や目標を持って努力できるようになります。

こんな時期です

- 自分でできているので言葉かけに配慮が必要です。
- 得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- 体も心も急激に変化します。バランスがくずれ、不安定になることもあります。成長を見守ることも大切です。

ポイント

- (1) 子どもの学習に関心を 計画を立てて自力で学習を進めるように見守りましょう。
 - ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
 - ・他の子どもと比べず、昨日のわが子と比べてほめる。
- (2) 学習環境を整える 自分に合った生活リズムをつくりましょう。
 - ・テレビは消す。スマートフォンやゲーム機は別の場所に置く。
 - ・帰宅後、夕食前など、学習に取り組む時間帯を決める。
- (3) 家族と学校の協力 思春期を迎え、子どもの心と体について気になることがあれば、担任の先生と話し合いましょう。
 - ・家庭でも学校でも子どもの話をよく聞く。



学年で身につけたい力

< 努力が実る5年生 >

- ・配当漢字（185字）のすべてを読み、8割以上の字を書くことができる。
- ・今までに習った漢字を使った熟語の8割以上を書くことができる。
- ・敬語に関心をもち、正しく使うことができる。
- ・日本や世界の主な国々の位置を正しく示すことができる。
- ・公式を使って面積や体積を求めることができる。
- ・小数のかけ算、わり算ができる。
- ・分数のたし算、ひき算ができる。
- ・割合を使った問題を解くことができる。
- ・日本の国土（山・、など）や産業について調べることができる。
- ・家庭科で学んだことを家庭で実践する。
- ・理科の実験方法や結果をまとめることができる。

< 夢や希望が持てる6年生 >

- ・小学校で習った漢字の8割以上の漢字や熟語を書くことができる。
- ・歴史に残る古文に親しむことができる。
- ・分数のたし算、ひき算、かけ算、わり算ができる。
- ・歴史上の人物や出来事について簡単に説明できる。
- ・日本国憲法や社会のことを調べたり、関心を持ってニュースや新聞を見たりすることができる。
- ・理科の実験方法や結果をまとめたり、宇宙や自然のことに関心を持って調べたりできる。
- ・家庭科で学んだことを家庭で実践する。
- ・読書を通して、考えを広げたり深めたりできる。

家庭学習の意義

家庭学習によって次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容が確かなものになる

学校で学習したことを家庭で復習することにより、学習内容の習熟・定着を図ることができます。特に、漢字や計算は毎日繰り返し練習すると効果的です。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。まとめてたくさんやるより、少しずつでも毎日続けさせてください。



② 学習習慣が身につく

少しずつでも継続することで大きな力となります。低学年のうちから毎日家庭学習を続けることで「家庭学習するのはあたりまえ」を定着させてください。



③ がまん強さ・根気・集中力がついてくる

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことでがまん強さ・根気・集中力を養うことができます。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力が必要です。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書の時間をしっかり確保してください。

④ 家族のふれあいの場にもなる

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。「本を読んでいる時、横で聞く。」「勉強がわからない時、教えたり調べたりする。」など、家庭学習をしている子どもに保護者が関わることでコミュニケーションをはかってください。

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心構えや関わり方で家庭学習の成果も変わってきます。子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日学習する

家庭学習を習慣づけるためには、毎日決まった時間に学習することが大切です。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思いますが、家族で十分話し合い実行してください。



② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。「家庭学習の方法」に記しています各学年の学習時間を目安に学習します。学校では、学年に応じた宿題を毎日出しています。宿題が終わっても時間が残っている時は読書・リコーダー・自主学習等に取り組むよう言葉かけをしてください。

③ 学習環境を整える

整頓された机に向かってよい姿勢で学習するようにします。テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえたり、マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあっては学習に集中できません。落ち着いて学習できる環境づくりに努めてください。



保護者や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることによって自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。口うるさく言ったり間違いをきつくしかったりすることは逆効果になります。子どものがんばりを認め、ほめて励ましてください。

自主学習参考例（５・６年生）

国語

○音読、暗唱、朗読・・・詩や俳句、教科書を情景を思い浮かべながら感情を込めて読んだり、暗唱したりしましょう。

○漢字・・・正しい書き順やとめ、はね、はらいに気をつけて正確に文字が書けるようにしましょう。

○作文・・・新聞やニュースから興味ある事柄をみつけて意見文を書いてみましょう。

算数

○計算・・・分数や小数のかけ算、わり算が正しくできるように練習しましょう。

○文章問題・・・問題を作ったり、自分の考えを図や式、言葉、文で説明できるようにしましょう。

○算数探し・・・生活の中で算数が使われていたり、役立っていたりすることを探してみましょう。

社会

○歴史・・・人物や時代の特徴を調べてみましょう。

○世界・・・テレビや新聞に出てきた国名や地名を地図で確かめたり、主な大陸と海洋、国の名称と位置などを覚えたりしましょう。

○政治・・・三権分立などの社会用語のだいたいが説明できるようにしよう。

理科

○ものづくり・・・学習したことをいかして、おもちゃや役に立つものを作ってみましょう。

○ふり返し・・・学習して分かったことや考えたことを説明できるようにしましょう。

その他

○物語や詩の本、科学などいろいろなジャンルの本を読みましょう。

○好きな運動遊びやスポーツをしましょう。

